

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年3月3日

【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670300823号		
法人名	有限会社 サフラン		
事業所名	グループホーム ヴィラサフラン		
所在地	鹿児島県 鹿屋市 郷之原町 12584番地 (電 話) 0994-42-7220		
評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島県鹿屋市星ヶ峯4丁目2番6号		
訪問調査日	平成21年2月28日	評価確定日	平成21年3月7日

【情報提供票より】(平成21年1月19日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 7 月 12 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 3 人, 非常勤 8 人, 常勤換算 5.9人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	33,000 円	その他の経費(月額)	27,000 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		900 円	

(4) 利用者の概要(1月19日現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	2名	要介護2	2名			
要介護3	3名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	84 歳	最低	73 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	白浜外科 小林クリニック 武田歯科
---------	-------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは郊外のバイパス沿いに位置し、まわりは農家が点在していたが、住宅地化が進みつつある集落にある。通所介護事業所と当ホームが隣接しており、利用者も職員も気軽に行き来しながら生活している。ホーム内は、明るく広々として見通しがよく、目がゆき届きやすいようにできている。職員は一人ひとりの利用者に寄り添って支援している。ターミナルケアにも取り組むなど、多様化するニーズに積極的に対応を推進しているホームである。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	水分摂取は、記録がなされて改善されている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の管理的な項目は運営者と管理者が行い、支援に関する項目はすべての介護職員で取り組んでいる。評価活動は、自分たちの取り組みを見直し向上できる機会との認識である。評価後は利用者の意向を尊重することに意を注いで支援している。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、利用者の支援状況及び自己評価や外部評価の取り組みなどが報告されるとともに、家族・職員も参加して積極的な意見交換がされている。出された意見については、職員で検討し改善に取り組み、支援や家族との交流に活かしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族が面会しやすいように配慮しているので面会者が多い。職員は面会時に必ず家族とゆっくり話をして意向を伺い、気軽に話のできる雰囲気作りを心がけている。意見は職員会議にかけ、直ちに解決に取り組んでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会の一員として地域との付き合いを大切にしている。地域の行事への参加やホームでの行事への招待など、ホームのオープン化に努めている。また、小・中学生の体験教室の受け入れや隣接のデイサービス利用者との交流なども積極的に行っている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	のんびりと、今までと変わらない地域での生活を続けるという理念を掲げている。地域密着型サービスを提供する事業所独自の理念を策定している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員や外部からの訪問者に、はっきりとわかる理念の掲示がされている。職員会議においても、理念に基づいた支援の在り方について共通認識を高めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会の一員として地域との付き合いを大切にしている。地域の行事への参加やホームでの行事への招待などホームのオープン化に努めている。また、小・中学生の体験教室の受け入れ、隣接のデイサービス利用者との交流なども積極的に行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価の管理的な項目は、運営者と管理者が行い、支援に関する項目は、すべての介護職員で取り組んでいる。評価活動は、自分たちの取り組みを見直し向上できる機会との認識である。評価後は、特に利用者の意向を尊重することに意を注いで支援している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、利用者の支援状況及び自己評価や外部評価の取り組みなどが報告されるとともに、家族・職員も参加して積極的な意見交換がされている。出された意見は、職員で検討し改善に取り組み、支援や家族との交流に活かしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の地域包括支援センターが音頭をとり連絡会を立ち上げている。市の担当者も参加して意見交換がされている。日ごろから市や地域包括支援センターに出むき、毎月の便りも届けるなどして連携を保っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「サフラン便り」を発行して、利用者の暮らしぶりや職員の異動等を報告している。健康状態については、受診時や変化のあった時は必ず報告している。金銭管理についても月末に郵送で報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会しやすいように配慮しているので面会者が多い。職員は面会時に必ず家族とゆっくり話をして意向を伺い、気軽に話のできる雰囲気作りを心がけている。意見は職員会議にかけ、直ちに解決に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動はやむを得ない異動のみである。新任職員の支援及び業務については、一定期間ベテラン職員が専任で付添い指導して、利用者へのダメージを防いでいる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画により虐待防止や身体拘束廃止などのテーマに沿って、月例研修会を実施している。認知症介護実践研修にも職員が交代で受講し、報告もされている。また、職員間に自己啓発の姿勢がある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム連絡会の主催する勉強会や事例研修会に参加している。地域の他のホームも自習を兼ねて訪問がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所申込みの際に、ホームを見学してもらったり、入居後はなるべく早く馴染むように職員が寄り添って、他の利用者との交流の雰囲気づくりなどを支援している。常に表情を観察しながら、馴染みを確認している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は多彩な人生経験の利用者から、励まされたりして共に生活している。また料理や地域の習慣など教えてもらったりして支えあいながら過ごしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしの中から、気持ちや意向をくみ取るように努めている。気づいたことは、生活記録表を作成して職員間で共有するようにしている。困難な場合でも、利用者本位に解決している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は本人や家族の意向をよく把握しており、ミーティングで検討し、担当者会議で日常的な暮らしぶりを通して話し合い介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアについて日常的に家族と会って話をしていく。3か月ごとにモニタリングを行い、職員で検討して現状に即した新たなプランを立てている。また、状況の変化時にも対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制をとり、24時間看護師と連絡が取れるしくみである。墓参りや籠つくりクラブへの参加支援・通院支援・自宅訪問・外泊支援など柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の指定するそれぞれのかかりつけ医となっており、主治医の指示通りの通院支援がされ、適切な医療が受けられている。家族への結果報告もされている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	職員会議で重度化・終末期の方針が立てられて、共有している。また家族の同意も得られている。ターミナルケアの実績もある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損ねない、さりげない言葉かけや対応について、職員はよく理解している。新人研修項目にも取り入れられており、個人情報保護の指導もされている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活ペースが確保されるように、スタッフの体制をとっている。支援が中心になるように配慮され、自由な生活リズムになっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみであり、早めに食堂に集まってきている。献立は利用者と話し合っ、好みの食事を提供している。準備や片づけを一緒に行いながら、職員と楽しく食事をとっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	生活のメリハリのため、風呂は毎日オープンしている。気持ち良く入浴できるように工夫がされ、時々隣接のデイサービスの檜風呂も楽しんでいる。		
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	共同スペースのカーテン開けやカレンダーめくり・洗濯物たたみ・縫い物・ボタンつけなどの役割やパッチワークなどの楽しみごともあり、電話も自由にかけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物に出かけたり、ウッドデッキで午前・午後の2回のティータイムを設けたりして、できるだけホームの外の空気に触れさせるように支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員が鍵をかけて自由を制限する弊害を理解しており、鍵をかけない支援に取り組んでいる。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画に基づき、年2回の防災訓練をしている。近隣の住民の協力も得ており、食品・水の備蓄もなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士の指導により、食事量や栄養バランスについて適正に把握されている。水分については確保するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、和風づくりで広々として開放的である。家庭的な玄関であり、ホールには利用者の作成した籠が飾られている。ソファやこたつ・ウッドデッキがそなえられ、利用者も家族も居心地良い共同空間となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れた家具やテレビ・個人の馴染みの持ち物が持ち込まれている。利用者の個性ある暮らしやすい住まいとなっている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。